

全佛通信

十一月号
発行所
財団法人
全日本仏教会
東京都中央区築地
三ノ一（本願寺内）
電話 〇三九六九
〇三九三三
〇三九三三
振替 東京三〇〇〇
〇三九三三
発行人 阿部竜電
編集者 伊東堅純
印刷所 ルビニ社



インドにおける 第七回世界 仏教徒会議に臨む

いよいよ十一月二十九日から十月四日まで第七回世界仏教徒会議はインドの聖地、サルナート、即ち初転法輪の仏跡たる鹿野苑で開かれる。主催者はタイ国バンコックの世界仏教徒連盟本部である。三年前の昭和三十六年カンボジアのプノンペン会議のときにタイ国は参加しなかった。その前昭和三十三年のタイのバンコック会議では、またカンボジアが来なかった。今度は主催地がインドだからカンボジアは来るであろう。然し北京の中国仏教協会はビルマの世界仏教徒連盟本部がウ・チャントン会長長の軟禁を理由に昨年十月タイ国に移され、会長もタイ国仏教協会副会長ブーン妃殿下に改められたことは非法法であると抗議しており最近もベトナム・ラオス等と共同声明の形で今度の第七回世界仏教徒会議がインドで行なわれることは承知出来ない。と再び抗議しているので恐らく参加しまい。また或はバンコックの連盟

本部そのものが案内状を出さないかもしれない。従って北京にならう北ベトナム・モンゴル・北朝鮮等も不参加の公算がある。連盟は多分来るであろうと思われたが、今回のフルンチョフ第一書記兼首相の解任によってまた変わるかもしれない。こうした状況にあつて開かれるインドの第七回世界仏教徒会議に臨んで日本仏教徒は何を議題とすべきであるか。これは本年の静岡大会でも審議され最近の全仏常務理事会でも検討されたが国際委員会の意見もある。

世界仏教徒会議に毎回出される議題の中に日本提案の南北仏教相互理解の問題と原水爆禁止の世界平和の問題である。前者はカンボジア会議の時はアメリカの提議したアジア相互仏教協会設立という大きな具体案の中へこの日本案はスッポリ入ってしまった。インド会議へはその時の提案者ガード博士も出席するであろうからこれの実現を要請すればよい。然し尊敬

すべき南方のテラワダ戒律仏教を奉じる諸国がまた何と始終不安定な状態で世界の二面記事を賑わしていることであろうか。ラオス然り、ベトナム然り、カンボジア然りである。ビルマは軍政で憲法停止である。裁判所がない。ウチヤントン世界仏教徒連盟会長は昨年八月夜半に武装警官隊に抱引されたまま今以つて家族も面会が許されていない、タイ国もサリット前首相は非常事態と称して憲法を停止し昨年これを継いだタノム首相も、なお踏襲している。ベトナムは南北に分れて周知の様な抗争で南ベトナム自体も猫の目の様にかわる不安定な社会状況である。古代日本に始めて仏教を伝えてくれた朝鮮も南北に別れて争つて譲らず中共は盛んなようだがこれも台湾と二つに別れての抗争で殊に最近核実験を行なつて米ソ英仏のひそみにならう帝国主義グループに入つてしまつては仏教精神もへツタタレもない。

今度のインド会議では南北仏教の融和問題に百尺竿頭一歩を進め何故アジアの仏教各国が世界平和のために寄与するどころかむしろ世界不安の場を形作つてゐるかこの現実的反省を試み、アジアの仏教を社会的、経済的、政治的の度から研究し対策を提供する委員会を作ることを日本から提案したい。核実験即時停止については前回のカンボジア会議で日本が提案し私が座長として委員会を通つたものを総会で中共やソ連や北ベトナムの代表が反対したためウチヤントン議長が事勿れ主義でこれを廃案にしようとした。日本代表は憤然退場する一幕を演じた結果投票に持ち込み賛成十一カ国、反対四カ国で国連もどきに日本代表の核案提案は堂々通過した。然るに今年には仏教国中共が核実験を行つたので会議としては大いに此れを批判しカンボジア会議の決議の再確認をすると共に日本の憲法にない進んで各国は交戦権を放棄し各々連邦組織として一つの世界政府の中にまといり、世界法による世界平和という人類恒久平和の理想に近づくように努力すべしという積極的平和提議をわれわれは試みるつもりである。此の際、日本側に於いても昨年も発足した世界連邦日本仏教徒協議会の紹介も行ない列席の仏教各国代表に各々同様の協議会を持たれるよう御話もしたい。

七世紀、中国からインドに滞留十七年の玄奘三蔵の道徳を慕い今度の会期中に千三百年記念式典を挙行、玄奘三蔵が仏陀の大法によって中印国をつなぎ更に朝鮮、日本と仏教による北アジアの平和文化を咲かす結果を将来したその偉大なる功績を現代アジアの実状に於て参加各仏教国の讃仰を求めたい。これも日本から提案するのが至当であると思う。亡きネール氏も昨冬会見のとき賛成してゐる更に南ベトナム最近の社会不安のカトリック教徒の狂信的暴挙にあるといわれておる。これも遺憾な仏教弾圧であるから南ベトナムに解決の手を差し伸べなければならぬ。またインドの新仏教徒は数百万といわれるが政治的にも三億幾千万のインド教徒を不当に刺戟し新仏教徒は幾多の困難に直面している。インド教のウインヌス派は

釈尊を祭つており、故ネール首相は勿論、故ブラサド大統領も現ラダクリシニナン大統領もインド教徒でありながら仏教徒に対する尊敬と信仰は誰もが知る如く極めて厚い。この際インドで催す世界仏教徒会議は諸宗教との提携の身近かな実践としてインドのインド教徒と昔ながらの因縁をたどつて温古知新の友好親和の決議を行ない数百万インド新仏教徒をはじめその難儀を救つてやるべきではないだろうか。また今回のインド会議でコロンボの第一回会議以来情熱と雄弁を以て常に大会を指導して来たウ・チャントン前会長が見えないのは淋しい。それが政治的拘禁のためと聞いて我々は更に遺憾の意を深めるのである。インド会議は当然ビルマ政府に向つてその釈放を要請すべきであろう。これも有志仏教国代表と共に日本が提案すべきである。

かくの如く見て行くと阪結的に考えられるのはいまの世界仏教徒連盟本部がいつまでもタイ国に置かれてあつていかどうかという点である。これは日本が提案することというわけには行かないがいざとなつたら本部で引き受けてやらないと、今後の世界仏教が東西両陣営に割れやしないかと心配されるのである。日本に世界仏教徒連盟本部が来れば中共も台湾も、南北朝鮮も、南北ベトナムもアメリカもソ連も東南アジア各仏教国も安心諸国も西も東も北も南も凡て自由に自由往来交通出来る議論が出来て何の差しさわりもない。これでこそ世界仏教徒の連盟が成立つと思ふ。そしてこれは全くの私案だが若しそうなつたら日本の世界仏教徒連盟本部は東京に置き京都にその支局を設くべきであらうと思う。（全仏常務理事、国際局長中山理々）

第七回世界仏教徒会議派遣団

団長に宮崎文輝師決まる

十一月十一日築地で盛大な壮行式

既報の通り第七回世界仏教徒会議派遣日本仏教代表団は決定したが、当初の石田学而師は都合で渡航を中止され、中山理々師は一応宗門（大谷派）の慶事もあり団から離れて十一月十九日頃単独で出発するので、次の三師が新たに追加された。

杉崎 法山

大乗教管長

名古屋市熱田区外土居町四四

杉崎 義孝

大乗教事務長

名古屋市熱田区外土居町四四

乙部 融朗

円通寺住職

東京都荒川区南千住六の二四

なほ代表団の構成は次のとおり決定を見た。

宮崎 文輝師

山本秀順師

佐々木徹真師

杉崎法山師

金岳良孝師

木下文堂師

黒田白純師

中山理々師

鎌田良昭師

山内信氏

福井清俊

阿部竜文師

三谷碩応師

9、原水爆実験反対運動を積極的にアピールしよう。

第七回世界仏教徒会議日程

十一月二十九日(日)

開会式 午後一時三十分

1、高僧による五戒授与

2、印度大統領に対するWFB会長の報告

3、印度大統領の開会宣言

4、ダライラマの法語

5、WFB後援者及各国元首のメッセーヂ朗読

総会

1、WFB会長挨拶

2、WFB各支部事務報告レセプション

ベナレス市長主催。於クラークスホテル

十一月三十日(月)

サルナート仏跡巡拝(午前八時三十分より九時四十五分)

総会(午前十時より十一時三十分) WFB支部報告

委員会(午後二時より四時) 討議(午後八時)

十二月一日(火)

ベナレス視察(午前中)

沙弥の得度式(午後一時)

ダルマベータ祭(午後二時) 討議(午後八時)

十二月二日(水)

委員会(午前九時)

委員会(午後二時)

歓迎委員会主催文化ショー(午後五時)

十二月三日(木)

委員会(午前九時)

総会(午後二時)

公開集会。於ベナレスヒンズ

1 大学(午後五時から六時

三十分まで) 十二月四日(金)

総会(午前九時)

総会(午後二時) 土産物贈呈。閉会式。

ベナレス名士主催レセプション(午後五時) 以上

なお団長に決定していた金子弁浄師は、東京池上本門寺貫主伊藤日定親下の急逝のため、急遽団長を辞退され渡航をとりやめた。

国際専門委員会

第七回大会を中心に協議

第七回世界仏教徒会議を間近にして、全仏国際文化専門合同委員会は、十月三十日午後一時から築地本願寺において開催される。議題は、第七回世界大会に関することとしらられるが、特にWFB本部の次期東京移動と云う重大議案が日本議案の中に含まれているので、可成り活発な論議が交されるものと見られている。

見て来た南ベトナム

十九才の日本青年に映った姿

既報の東洋大学仏教学科一年、若千十九才の伊東照司君は、タイカンボジア、南ベトナムへ七月五日に出発し、九月二十五日海路無事帰国した。

同君は、旅費をアルバイトで稼ぎ、南ベトナムにおいては東洋大学に在学したことのある、トムチヤック師等の寺院に宿泊したりしながら、現地の僧侶生活、政治状

勢視察のため、在家の身でありながら頭髪をまるめ、法衣をきて数々の危険をかいくぐり八十日間の東南アジアの長旅をハタで感じ予想以上の成果をもたらしてきた。

全仏国際局では同君の為に去る十九日午前十一時、築地本願寺で伊東照司君帰国報告会を催した以下伊東君の報告の内容は主に南ベトナムに入って一番印象が強かったことは、現在問題になっているところのベトナム問題、仏教とカソリックの宗教戦争であり「トンキン湾事件以来、ベトナムの勢力は強まり事態は一層深刻化している。サンゴン、ユエ間には

たくさん見張り所があり、川の兩岸にも必ず作られている。また一部では汽車線路の両側に戦車の護衛がつき、また汽車の中には銃を持った兵士が乗って走るといった状態だった。宗教戦争問題は、サイゴン市内の仏教徒とキリスト教徒は手をにぎりあっているようであるが、所謂、田舎の教養のない手のつけられないキリスト教徒達か、ゴ・ジンジエム政権のかたきと云って、夜になると仏教徒を襲う状態である。そのため青年僧は夜は寝ないで警戒に当たっているという状態だ、現在各地のボーイ・スカウトと云った形で自衛のための仏教青年団が出来つつある

そして結論的には、宗教戦争の問題より、ベトナムにいるアメリカ人兵士の問題を如何にすべきかという点とアメリカの南ベトナムに対する今後の政策に鍵がかかっていると思うと語っていた。

なお、同君より南ベトナム仏教の現状について別掲の如く全文を載せて紹介することにする。

南ベトナム仏教の現状
 竜山章真著の「南方仏教の様態」と言う本によると、南ベトナム仏教の現状を「混成仏教」と呼んでいる。確かに歴史的に見ても、二



伊 東 照 司 氏
 世紀項、
 仏教は主
 として北
 方支那か
 ら伝った
 十世紀
 後半から十四世紀末にかけて開華し、十五世紀頃から同じく支那から儒教道教が多く伝ったと言う。更に阮朝においては、朝廷が儒教を愛好し、仏教は民間の信仰としてのみ行われ、備道二教の混成仏教を生み出したと言うのである。

現に僕が南ベトナムにおいて、この混成的寺院を多く見る事が出来た。これらの寺院の本堂には五六段の壇があり、その上にいろいろの尊像が安置されているのである。たとえば、まず始めの列には普通誕生仏と左右に阿難と目連との像がならび、次の段には道教の神々、冥府の王・北極星・南極星がならぶ。その上の段には從者をともなえる諸仏、仏教の二宝、孔子、老子などの像が安置されている。だが、それらの配置のし方は寺院によって、いろいろ複雑であり、一定の型はないようであるが、仏教の仏陀がやはり中心をなしているようであった。また脇壇には普通に観音菩薩・弥勒菩薩・文殊菩薩や守護の諸天、寺を開山した高僧等の像がはられる。そして地獄の囚などが壁にえがかれ、特に羅漢の囚や道教の神々の囚が目をひかせる。これらの寺院は特に古

い禅宗の寺院を中心に、見る事ができる。僕のおとずれたそのいい例をあげて、サイゴンの郊外にある覚林祖庭寺と言うのがそれである。千七百十四年、国王よつて建られたと言う古山門宗の禅寺である。

そんなわけでもニ郊外の古い寺を訪ると道教の玉皇上帝、関帝像などが立ちならび、仏前には仏教經典と共に、道教の玉皇経がそなえてありしまつてある。もちろんこれらの寺院は古い寺に多く、寺院内をぜんぜん改造してない國王の寺とか、禅宗の古寺に見ることが出来るのであって、これがすべてではない。

私が見た

南ベトナム仏教の現状(上)

「居士仏教」とする仏教改革運動が、つづけられ仏教の本質を浄化する運動がなされたものの、まだ完全とは言えない。こんなわけで竜山章真著によると、南ベトナム人の信仰心は、「彼らはただ何らかの超人的存在を信じ、神秘的なものを探求しているにすぎない。従ってかかる混成宗教は、統一的な強い信仰の力を産み出すことは困難である。」と書かれておられる。まったくその通りである。一般的無気力がフランス植民地政策の結果をもたらし、キリスト教の滲透と、千九百二十六年におこった仏教と道教とキリスト教を混成して出来た、高台教という新興宗教が出来たのも、それに原因を帰す

ると言えよう。かくして複雑なる歴史的背景から二十世紀の悲劇でも言うべき仏教迫害が現在南ベトナム国民におしよせてきたのであった。それはフランス統治下以後の仏教の墮落とキリスト教(カソリック)の滲透であった。

① 素晴しい南ベトナム 仏教統一教会

長い間のフランス植民地時代から脱して、衰退していく仏教に変わって、故ゴ、ジェンジエム政権において多くのキリスト教の教会を町に村にそして部落にまで建てた。そして、この仏教がかえって盲目のようによばれ、仏教徒の抑圧にまで、およんだものであった。そしてゴ・ジェンジエムのカソリック

ク政権が九年間つづき多くの仏教徒が迫害されたのである。そのゴ・ジェンジエム政権(キャンソリック政権)の反動として、仏教徒が立ち上り団結し統一化したものが南ベトナム全土を支持する南ベトナム仏教統一教会と言う教団であった。この教団は南宗(ヒナヤナーの僧)と禅宗と阿弥陀宗が一体となったもので、南ベトナム仏教の、大きな力となつて、現在この教団が自分らのお金で国寺を建設中である。その外、サロイ寺もその教団の代表寺院であり印光寺は、南ベトナム仏教統一教会の宗務庁にあつたっている。僕のときまつていた印光寺には黄色い僧衣をつけたヒナヤナー僧もおり、阿弥陀

経もあげられ、年に三ヶ月間みな僧は本堂にすわって坐禅をする。であるから日本の様に多くの宗派がなく統一化されている所に多くの利点がある。それと言うのも、このカソリック政権への「宗教信仰の自由」の訴えから成されたものなのである。彼らに言わせると南ベトナムの純粹の仏教は、この南ベトナム統一教会以外にはいづれにもならないと言っていると言っている僧侶、道教の混成がないと云つてもよいであらう。

参考にも他の南ベトナムにおける教団をあげると臨濟六和教会和好仏教教会、遊僧教会と言ったものがある。臨濟六和教会は達磨禅、特に禅であるが、教義内容も純粹な臨濟禅ではもとよりなく、一つの寺の中に阿弥陀、釈迦、弥勒菩薩の諸仏とならんで、道教の玉皇上帝、関帝像が立ちならぶと林祖庭寺である。先にのべた覚歴史的背景が深く、後漢の安南征服時代に臨濟禅が中国から伝来したと、言う。であるから昔しの南ベトナムの仏教史を研究する上で多くの興味をもたらせる寺院が多くある。信徒五十万人と言われている。

和好仏教教会は信徒が軍人に多く僧侶がないのが特色である。昨年のゴ・ジェンジエム政権打倒の革命の時に活躍したと言われている。信徒数二百万人と言われ中心地をアンギャン、プロビンスにある。

言われており、サイゴン以南の南ベトナム南端に多くいる。内容はヒナヤナー僧とマハヤナー僧が合一したもので、僧衣はすべて黄色い衣でヒナヤナー型であるが、寺院はマハヤナー型の寺に住んでいる。ヒナヤナーの寺とマハヤナーの寺の見かける別は、ヒナヤナーの寺には美しく造った庭がなく、台所もない。台所がないのは、南ベトナムの南宗僧及びヒナヤナー僧は一日に一度だけ托鉢を行い、信者から食物を得ているから、料理場でない。本堂には釈迦一仏にして他にみあたらない。サイゴン内には二十のヒナヤナーの寺があると云う。マハヤナーの寺の本堂には釈迦はもちろんのこと阿羅漢・菩薩の多くの像がある。庭も花を、植え、粗末であるが日本の禅寺に似ている。大きな料理場をもち熱心な信者が僧侶のために菜食料理にうてをふるう。

今後、南ベトナム仏教徒の前進は「名誉ある自由」を確立することである。南ベトナム仏教統一教会こそ、その原動力なのである。

② 南ベトナム仏教青年団

ゴ・ジェンジエム政権墮落後のキリスト教仏教徒迫害は、キリスト教徒の父ゴ・ジェンジエム政権の仇が仏教徒へ来ているのである。特に田舎のキリスト教者に危険性があり、夜になるとピストルナイフをもって仏教寺院をおそうのである。僕のいた八月三十一日そのような事件がおこり、田舎のキリスト教者が兵器(ピストル・刀)をもって仏教の学校を襲撃し、青年一人と子供一人が殺され多くの人々が重軽傷をおった。死(次頁につづく)

体は国寺におかれ、多くの市民の涙となった。僕のとまっていた印光寺ではその次の日から僧侶は夜ねずに、寺の中をうろろし、キリスト教者の襲撃にそなえているのである。

南ベトナム仏教統一教会の中に仏教青年団と言うものが組織されており、仏教を信ずる学生を主体として構成されている。服装はポロイスカウトのようなもので、やや軍隊的雰囲気をもっている。彼らはキリスト教者に対抗するため、多くの僧侶の助けとなり、また僧侶を安全にまもる役もしているようである。八月三十一日の事件以来、仏教青年団が寺のへいに鉄じょう網をはりめぐらし、多くの青年が門にかまえているのである。寺院内には警告用のスピーカーをそなえ、青年らは手に持った長い棒をもち、カソリック信者の襲撃をまわっているのを見る事が出来た。また仏教青年団の下に仏教幼年団とも言うおろか小さな子供達の団体であり、各部落ごとに形成されており、指導者は仏教青年団の青年が行なっている。仏教の歌をいつも歌い、敬礼の一方は右手をあげて、ぐすり指とおや指をまげ合手に示す。のびた三本の指は三宝(仏陀、教法、僧伽)の意を示すのである。

いずれにせよ、これら組織は僧侶と一般市民との関係を密接にし、仏教発展に多きな役わりをはたしている。(筆者は東洋大在学中)

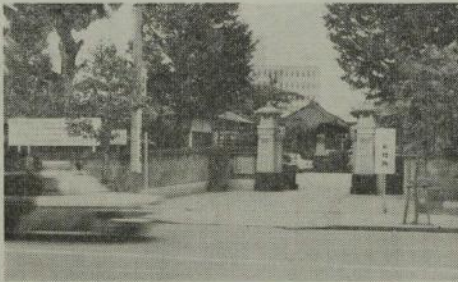
お詫びと訂正

さきの通信九月号三ページ渡辺泰経師の(住所)岡山市上伊福井中町八四四八は(訂正)岡山市上伊福井中町八四四の一の誤りでした。

**オリンピック礼拝寺院
続々つめかけける選手団**

十月三十一日に開所式

オリンピック東京大会出席の選手団に対する仏教徒礼拝寺院は、十月一日を以って開所され、当日同礼拝寺院(長泉寺)住職柴田秀晃師導師により厳かな開所法要が営まれた。全仏オリンピック対策

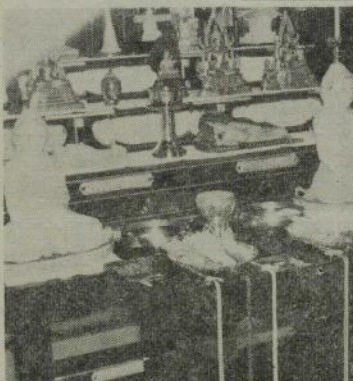


(写真) 礼拝寺院の長泉寺

が礼拝に立寄り、柴田住職をはじめ、毎日交代でつめていた。三大学生は応接に大童であった。なお同礼拝寺院は十月三十一日を以って開所することになり、当日は高階全仏会長も出席して開所式典の導師をつとめ柴田住職へ全仏会長名による感謝状と記念品を贈ることになっている。

全仏が歓迎屋食会

南ベトナムのトムチャック師 昨年暮れの南ベトナム政府打倒のためのクーデター以来、南国仏教差別と断崖に反対し、南ベトナムにおける宗教平等のためリーダー格として活躍していたトムチャック師が、同国のオリンピック柔道



(写真) 祭壇にかざられた仏像

協議会委員、立正、大正、駒沢三大学IBI所属の学生通訳、全仏事務総長以下各局長、部長、主事らが出席した。ついで全仏へ贈られた東南アジア各国の仏像仏典等が施錠鬼壇に飾られ、全員が礼拝、焼香をなした。お詫びと訂正。なお引き続き打合せ会をなし午後一時に散会した。なおこの期間中には、セイロン、タイ、ベトナム、インドなどの参加選手

野田市仏教徒会議

野田市仏教会恒例の仏教徒会議が新会長古谷光隆師のもとに十月二十二日午後一時半、参会者百名が集まって野田市大師山で開かれた。

開会式は古谷光隆師導師のもとに説経が行われ、新会長挨拶、全仏会長代理挨拶、千葉県仏理事長挨拶があり、次いで市仏副会長、和光正安師の司会で議事に入り、野田市仏教徒会議の今後の方向について提案があり、最後に議長より結論として「我々は、仏教思想に基づいて、仏教婦人会、仏青年会のため、その宣揚につとめよう」との申し合せが採択され会議は閉会した。

我々の望んでいることは、①政治に関与しないが、明瞭さを希望する。②社会的階級の平等、③宗教の平等の三点で現在尽力している。どうか日本仏教徒の今後の物心両面に亘る御援助を心からお願したい」とのべ、別掲のメッセージが南ベトナム仏教会長釈心珠師から托されたとして披露した。

メッセージ

私は南ベトナム政府軍の従軍僧のトムチャック師に托して御挨拶申し上げることは私の最も慶びとするところでありませう。昨年のゴ・ジン・ジエム政権による我々に対する断崖に対し、また我々に対する物心両面に亘る日本仏教徒及日本国民の厚意に対し衷心より御礼申上げる次第であります。合掌

- 野田市仏教会 (大長寺内)
- 福岡市仏教会 (大長寺内)
- 福岡市舞鶴一丁目三の九 住所 福岡市舞鶴一丁目三の九
- 野田市仏教会 (大長寺内)
- 野田市中野台六五一 住所 野田市 電話(野田)三八三三 (報恩寺) 新会長 古谷光隆師

選手団団長としてひよっこり来日した。全仏では十月二十三日午前十時から同師の歓迎会を開き、生々しい現地の話をきいた。会は阿部局長の三師依文導唱により幕をあげ、中山局長が歓迎の辞をのべ、ついでトムチャック師が「昨年のクーデター以来、サイゴンでは一応仏教徒に危害は加えられなくなったが地方へ入ると、ゴ・ジン・ジエム前大統領当時の役人が居て、仏教徒を迫害している。所がついに最近にサイゴン市へ夜になってカソリックの狂信的な連中が一万人数流れこみ、各所で仏教徒経営の学校や各施設を破壊し、殺人をおかした。我々はこれ以来、夜も眠れずに警戒にあたりている現状である。我々は現在仏教徒による自警団を組織して自衛にあたりている。